はるかな尾瀬

—目　次—

02　特集　尾瀬の思い出 ～尾瀬に常宿があるということ～
04　特集　子どもたちに伝えたい尾瀬
06　連載　尾瀬の語りべに聞く
07　現地情報
　・原をわたる風だより
　・おこじょだより
09　尾瀬ボランティア情報
10　尾瀬保護財団からのお知らせ

2023.12 vol.53
(公財)尾瀬保護財団

白澤　滋民「下の大堀川の秋　牛首と至仏山」

特集

尾瀬の思い出 ～尾瀬に常宿があるということ～

私が初めて尾瀬を訪れたのは１９７８（昭和53）年です。高校３年生、17歳の夏休みの終わりに、友人に誘われての山行でした。受験勉強で、家に閉じこもっていた時に、友人からの電話で、「尾瀬に行かないか」と誘われました。それまで山登りを本格的にやっていたわけではないので、粗末なリュックに水筒や傘、着替えなどを詰め込んで夜行列車に乗りこみました。

早朝、大清水から入山して三平峠を越え、尾瀬沼におりました。尾瀬沼からは、南岸を回って沼尻にでて、白砂峠を超えて見晴、平滑ノ滝、三条ノ滝をまわり、宿泊先の東電小屋に到着しました。夜、暖炉にくべられた薪が、真っ赤に燃えて炎が揺らめいていたのを今でもはっきり覚えています。

三条ノ滝

景鶴山（秋）

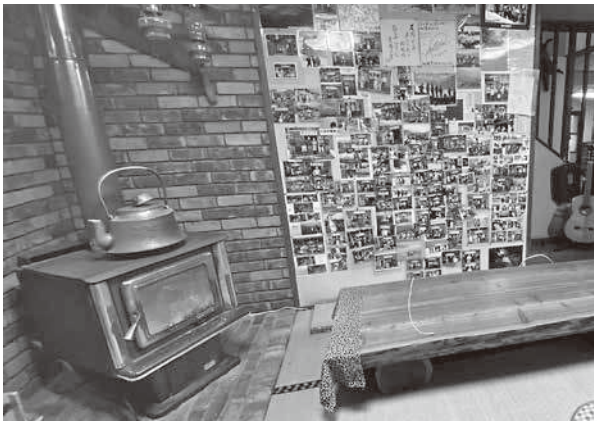
翌日は、燧ヶ岳に登りました。ただ、どこから登り、どこに降りたかは覚えていません。見晴に戻ってきた時は、すっかり日が暮れていました。宿泊の予定はなかったので、今となってはあり得ませんが、尾瀬ヶ原のベンチで野宿しました。夜中、夜露が凄くて、こりゃたまらんとのことで、鳩待峠まで登り、無料休憩所の軒下をかりて横になりました。

しばらくすると友達が、寒い、寒いと起き出しました。8月終わりの尾瀬の夜ふけは、そうとう気温が下がっていました。夜明けまでには、かなり時間がありました。じっとしていると寒いので、とにかく体を動かそうということになり、目の前の至仏山を登ることにしました。ヘッドライトを持ってきていなかったのに、月明かりが明るくて登山道は、はっきりと見えていました。満天の星が輝き、見上げるたびに流れ星がおちてきました。ただ、下山の時は何度も何度も道を見失って、藪漕ぎをして、なんとか鳩待峠にたどり着きました。駐車場で、ヒッチハイクをして沼田駅で下ろしてもらい、帰途につきました。

初めての尾瀬は、それはそれはあまりにも素晴らしくて、家に帰って話をしたら、それならみんなで行こうということになり、2ヶ月後、家族揃っての尾瀬旅行が決まりました。

夜行列車とバスを乗り継ぎ、鳩待峠から入山。10月の尾瀬の夜明けはと

玉田さん家族写真


桧枝岐小屋談話室

ても寒くて、尾瀬ヶ原は紅葉真っ盛りでした。父、母、弟は、初めての尾瀬。家族4人で尾瀬ヶ原を見晴まで歩き、予約していた山小屋に到着。満室で広い部屋に相部屋でした。翌朝、出発時に家族で撮った写真が、今でも山小屋の談話室に貼ってあります。

それから数十年後、母が亡くなり8月に納骨を済ませた時に、「秋になったら家族みんなで行った尾瀬に行こう。そしてあの時と同じ山小屋に泊まろう。」それが桧枝岐小屋でした。2006（平成18）年9月、父と2人で母との思い出の尾瀬へ。あの時と同じ桧枝岐小屋に宿泊。それから私の尾瀬通いが始まりました。

仕事が休みの日は、夜中に車を飛ばして、NHKのラジオ深夜便を聞きながら登山口の大清水に到着。夜明け前から歩き始めて、長蔵小屋裏のビュースポットで、早朝の尾瀬沼を眺めながら一休み。そのまま尾瀬ヶ原の見晴にぬけて、馴染みの桧枝岐小屋にお昼前には着いて、昼食。翌朝、日の出前に、山ノ鼻にむけて尾瀬ヶ原を歩き、朝焼け、日の出、小鳥達の目覚め、ときおり白虹が出現したりして。山の鼻小屋で、いつもの味噌ラーメンを啜り、ソフトクリームとコーヒーで一服。尾瀬に別れを告げ、鳩待峠への上り坂を登り、帰途につく。

そうこうして、気がつけば尾瀬通いも80回を超えていました。桧枝岐小屋への宿泊日数も数え切れないほどになって、いつのまにか常連客になっていました。いつも温かく迎えてくださる桧枝岐小屋の皆さんには、感謝です。

2021（令和3）年5月からは、尾瀬沼ビジターセンターの管理員になり、尾瀬沼の宿舎で暮らしています。朝晩の水のおりなす自然現象は素晴らしいです。休みの日は、尾瀬ヶ原見晴の桧枝岐小屋に泊まり夕方、早朝の変化していく景観を楽しんでいます。

皆さんも、自分のお気に入りの山小屋を見つけて、尾瀬に帰ってきてはいかがでしょうか。

（尾瀬沼ビジターセンター　令和5年度管理員　玉田英司）

桧枝岐小屋前集合写真

燧ヶ岳（俎嵓）から尾瀬沼を望む

子どもたちに伝えたい 尾瀬

みなさんは、森林の緑の中に行ったり、自然のきれいな風景を見たりしたときに、清々しい落ち着いた気分になったことはありますか。自然の中にいると神経が休まり、心も休まっている自分に気付きます。また、知らず知らずのうちに、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の五感を使って楽しんでいるものです。自然は私たち人間に癒しを与えてくれます。忙しく時間に追われて目まぐるしい日々を送っている現代人にとっては、特に大切なのではないでしょうか。そのためには、私たちが自然を守っていかなくてはなりません。

尾瀬は日本に残された自然を代表する場所です。冬（11月～4月）は、4～5mの雪の世界です。約半年間厚くおおわれた雪の下で、冷たい風に守られて植物の新芽が育ち、動物も春を待ちます。長い冬が終わり、雪が解け始める5月、遅い春が尾瀬にやってきます。雪解け水で満たされた湿原には「ミズバショウ」をはじめ、たくさんの花がいっせいに咲き始めます。7月になり夏が近づくとさらに花の数が増え、池塘（ちとう）に映る入道雲や青空と一緒に湿原が輝いて見えます。8月下旬になると、そろそろ秋の気配になり、湿原が色づき始める「草紅葉（くさもみじ）」の時期になり、紅葉はまわりの山々に移っていきます。尾瀬の春夏秋は、かけ足で通り抜けていきます。

この美しい尾瀬の自然を守るために、企業・団体のご協力ご支援やボランティアの皆さんのご尽力をいただきながら、尾瀬の位置する各県、各省庁、そして私たち尾瀬保護財団などの関係者が環境保全を行っています。過去には、尾瀬ヶ原がダムになる計画もありましたが、この自然をみんなで大切に守っていこうと、国立公園でもいちばん利用の厳しい「特別保護地区」や「特別天然記念物」に指

定されているほか、「ラムサール条約湿地」（水鳥の生息する場所として重要な湿地）にも登録されています。荒れた湿原を回復させようと種をまくなど植生回復作業を行ったり、交通規制を行ったり、ゴミ持ち帰り運動など、尾瀬の自然保護運動が全国に広がりました。さらに、山小屋や公衆トイレで水質浄化の取り組みも全国に先駆けて行い、ほとんどの山小屋や公衆トイレに合併処理浄化槽が設置されています。

コロナ禍で思うように外出できなかった期間がありましたが、今年は子ども連れのご家族がたくさん尾瀬を訪れています。そんな中に、スライドレクチャーで真剣にメモを取っていた小学生の女の子がいました。次の日の朝の自然観察会にも参加し、お母さんと一緒に花の写真を撮ったり、質問したりと熱心に取り組んでいました。「一生懸命ですごいね。」と声をかけると、笑顔で「夏休みの宿題の自由研究にするんです。」と答えが返ってきました。このお子さんは、尾瀬を訪れて美しい自然に触れるとともに、それを守るための環境保全についても学んでくれたのではないかと思います。そして、この尾瀬の自然を守りたいという気持ちをもってもらえたなら、それを自分の身近な自然を守ることにもつなげていってくれることを願います。

（尾瀬山の鼻ビジターセンター　令和5年度管理員　渡辺直子）

ダケカンバ林

タテヤマリンドウ

尾瀬ヶ原と燧ヶ岳

木道とカキツバタ

「尾瀬の語りべ」連載

前号の歩荷に関する話に続いて松浦和男さんへのインタビューの内容をまとめた連載の最終回です。松浦さん、貴重なお話しをお聞かせいただきありがとうございました。

救助に関する話

昭和30年、片品村で遭難対策救助隊が組織されました。それまでは遭難者が出ると消防団が招集され、緊急出動していました。私は30歳からの30年間は現役で救助を、60歳からは顧問として活動しました。救助隊は尾瀬班・白根班・武尊班の3班、各5名程で編成され、尾瀬で遭難があれば、他の隊も自分の日常の仕事を中断して駆け付けました。なので、行方不明者捜索は5日間ほどを目途に打ち切っていましたが、「あと1日何とかお願いします。」と言われてしまうと、断ることには非常に苦悩しました。

当時、富士見峠で女性の遭難が起こり、一斉に山を捜索しました。その方は仲間と富士見峠に泊まり鳩待峠に戻る途中、トイレに行った遅れを取り戻そうと、間違って尾瀬ヶ原に向かう沢に入ってしまったのです。数日探して発見出来ず、捜索を一旦引き上げましたが、1週間ほど経って、富士見小屋の人が、放心状態で倒れたその女性を発見しました。なんとか生存していたその女性を、担架を持って搬送しに行きましたが、眼鏡も無くなり、顔はブヨに噛まれて酷いことになっていました。他には、遭難から16日後に救助された方もいました。皆が諦めていたのに、助かって入院していることを知り訪ねてみると、姿は大変なことになっていましたが、気力はしっかりされていました。遭難時も記録を取っていたそうで、後日送ってくださいました。この方は、遭難中に体調不良で2日寝ていたこと、綺麗な湧き水しか飲まなかったことが良かったのだと思います。何年か後、テレビ番組でその方のドキュメンタリーを見たときはびっくりしました。

遭難の原因は様々ですが、一つは道がわからなくなった時、来た道を戻らずそのまま進んでしまうことがあります。道を戻ることは、なかなかできないのですよね。数え切れない遭難の現場を経験して、亡くなった方、一晩遭難している間に遺書を書いている方もいました。救助隊は発見後、すぐ警察へ要救助者を引き渡しますが、遭難者の行動や考えを知り、捜索の参考にするために、事情聴取を聞くようにしていました。下山時「同行者の足が遅いから」と、先に下りた人が迷ってしまうのは多い事例です。また、女性の場合、迷ったと気付くと、暗くなる前にビバークすることを決めて暖を取ったりして動きませんが、男性の場合、夜も歩き続けてしまうことが多いです。今日中に帰らなければという責任感なのか、暗闇を動き続けて事故をして、亡くなることが多いです。

宿泊する人は、ある程度しっかりとした装備ですが、最近は日帰りで軽装の人が多いです。尾瀬は山なので、しっかりと準備してきてください。また、携帯電話が普及してきた当初は様々な意見もあって、アンテナを立てる予定が中止になったこともありますが、連絡が取れれば、事故や救助の時に役に立ちます。許されるものなら、もう少しアンテナを増やして、携帯電話の使用範囲が広がれば事故や遭難の際に良いと思います。

原をわたる風だより

今年は特に異常な気象が印象的でした。今年度、例年にない少雪で幕を開け、夏も間近な6月末の降霜により、これだけで尾瀬の花たちはダメージを受けました。ミズバショウの仏炎苞は茶色くなり、ワタスゲの果穂は探さないと見つからないほど。尾瀬では珍しい30℃を超す真夏日が9月まで続き、少ない雨のせいか木々の紅葉は見どころなく終了してしまいました。この半年を通じて、改めて地球温暖化の危機感を感じ、私たち一人ひとりが環境に配慮した生活を考えねばならぬと痛感いたしました。（西澤　政春）

尾瀬のシーズンを振り返ると、春は残雪が少なく上山時には尾瀬ヶ原の木道は出て、雪解けの湿原には水芭蕉が出ていました。夏は暑い日が続き降雨も少なく湿原は乾燥ぎみでした。秋の草紅葉は多くのハイカーで賑わい、10月初旬には至仏山等高い山は初冠雪となりました。春は遅霜、夏は暑く渇水と植物等厳しい季節になったのではないでしょうか。永年尾瀬に関わっている私もあまり経験したことのないシーズンでした。（笹原　宗利）

三年目のシーズンも終わろうとしています。この三年間で大きく変わったことは、ネイチャーラーニング等で学校行事が増え、子供たちの笑い声が聞こえ、たくさんのハイカーが訪れる尾瀬本来の賑わいが戻ってきたと感じています。ビジターセンターでも多くの方とコミュニケーションがたくさんとれた半年間は自身が大変勉強になり、財団事務局、管理員の皆さんとの業務は充実した日々となりました。尾瀬の守人として過ごせた半年間、知り合えた方々は人生の宝物であり感謝しかありません。尾瀬の自然で癒された時間は、ここでなければ得られない瞬間でした。（新保　正利）

昨年に引き続き、管理員として勤務をさせていただきました。今年はお子さんを連れた家族連れのハイカーさんたちにたくさん出会いました。お父さんの背中におぶわれたお子さん、自分の足で元気に歩いている子どもたち、大人に混じって自然観察会で真剣に話を聞いているお子さん、それぞれに尾瀬を楽しんでいる様子がうかがわれました。燧ヶ岳をバックに家族写真を撮っているご家族にも遭遇しました。今年もたくさんのハイカーさんの笑顔に出会えることができ、感謝いっぱいの半年間になりました。（渡辺　直子）

5月10日に尾瀬に入り山の鼻ビジターセンター管理員として約6ヶ月の共同生活がスタートしました。1年目で多くの業務が初体験、しかも直ぐに水芭蕉の見頃時期を迎え多くのお客様が来られる中、戸惑う事も多くありましたがメンバーに恵まれ、かつ多くの「尾瀬愛」に満ちたお客様との触れ合いの中楽しい日々を過ごさせて頂き、私の人生の中で「宝物の半年」となりました。感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。また、尾瀬でお会いしましょう！（山田　慎）

尾瀬で生活して感じたことがたくさんあります。花の移り変わりが早く、夏が短いこと。豊富な水によって尾瀬の自然が成り立っていること。多くの人々によって尾瀬が守られていること。

そんな尾瀬の地で、山や植物、鳥など好きなものに囲まれて生活できたことや多くの方と知り合えたことは幸せでした。そして何より、優しく接してくださる方々と共に働くことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。（天津祐子）

尾瀬に魅せられ念願の尾瀬で働かせていただくこととなってから、半年間があっという間に過ぎました。朝の清々しい空気や鳥のさえずり、至仏山に沈む夕焼けの中で穏やかな時間を過ごすことが出来、またたくさんの尾瀬に関わる方々と出会えたことは私にとってかけがえのない財産となりました。尾瀬を訪れる皆様は、様々な思いを持ち訪れるかと思いますが、尾瀬の自然に癒され、お帰りの際にはとても素敵な笑顔で帰っていかれます。これからも尾瀬や尾瀬を訪れる方々のため活動が出来れば幸いです。半年間ありがとうございました。（川畑　修）

山が好きで人生で一度は大自然の中で住み込みしながら働きたいと思い、尾瀬にきて半年がたちました。尾瀬や花についての知識もなく来ましたが、今ではお客様に聞かれた時でも答えられるくらい知識を付けることができました。私自身とても充実した半年間になりました。尾瀬のような素晴らしい場所を将来も残していくには、私たち若い世代も自然保護に興味を持たなければならないと感じました。半年間大変お世話になりました。ありがとうございました。（稲村　幸大）

山の鼻ビジターセンター職員

おこじょだより

毎年思うことですが、今年もアッという間の半年でした。毎日尾瀬の素晴らしい景色を見ることができて、いろいろな人と接することは、とてもよい刺激になっています。サラリーマン時代は、会社側の意見と顧客側の意見、主にこの2つの軸で考えればよかったのですが、尾瀬にいると何が正解というところは難しく、多方面の方々から360度いろいろな意見が出てきて、とてもよい刺激になっています。最後に尾瀬に感謝、そして一緒に頑張ってくれたビジター職員に感謝しています。（阪路　善彦）

週末に行われる「夜のスライドショー」で「尾瀬の四季」をテーマにした10数枚のスライドセットを作成し何回か上演しました。そのスライドセットを何人かの管理員が各々のスライドに流用して上演を行ってくれました。自分がイメージしている伝えたいことの表現を皆に共有して頂けたことはとても嬉しいことでした。一緒に1シーズンを共に出来たことに感謝しています。ありがとうございました。（齋藤　孝）

尾瀬沼での生活はもちろん不便なこともありますが、それ以上に大きな学びや気づきがありました。朝、目が覚めて窓から見た燧と尾瀬沼の美しさも、みんなで腹を抱えて笑いながら食べた焼肉の味も、夜中になんとなく外に出て見上げた言葉を失うほどの満天の星空も、全てが私のかけがえのない思い出です。個性豊かな仲間たちと半年間暮らし、思い出を共有できたことは私の今後の人生の財産となるでしょう。本当にありがとうございました。（馬場　大祐）

凍てつく尾瀬沼に、訪れる渡り鳥達。海をこえ、大陸をこえ、降り立つ銀色の群れ。平和のメッセージを携えて、一羽二羽と、国境を越えた、自然に生きる姿。過行く時代に、変わらないものがある。時を超え、大陸を超え、真実を見せてくれる。みずみずしい翼が大空へ、夢を羽ばたき、明日へ向かって。降っては解ける雪も、やがて根雪となって、尾瀬沼をおおいつくし、長い眠りにつくことでしょう。暖かい春が訪れる頃には、また皆さんに、お会いできることを楽しみにしております。（玉田　英司）

2年目の尾瀬、こんな木があったのか、この動物はこんな生態があったのか、こんな歴史があったのかと驚く日々が続きました。まだまだ知らないことがたくさんあり、2シーズン過ごしていても時間が足りないくらいの日々でした。尾瀬の来訪者にも自然や歴史に親しんでもらい、尾瀬での出来事を「自分ごと」として取り込んでいただけたらと思います。尾瀬沼ビジターセンターの皆様も半年間お世話になりました。ありがとうございました。（八幡　直輝）

5月の上山からいつの間にか半年が過ぎようとしている。ホースをくくりつけたデッキブラシに感動した初日のトイレ掃除、雪の日の燧ヶ岳巡回、包丁を握る手がぎこちなかった食事当番、緊張で喉がカラカラになったミニツアーや夜のスライド、星空観察会、すべてがついこの間だったような感じがしてならない。上手くできたかどうかは別として、何とかクリアできたのではないだろうかと自分では思っている。これらは全て尾瀬沼ビジターセンターの先輩・仲間達の励ましやアドバイスのおかげだと思っている。感謝してもしきれない。本当にありがとう！そして尾瀬はやっぱり素敵だ！（髙瀬　一也）

毎週のように山へ足を運ぶほど山が好き、ただそれだけで会社を辞めて尾瀬に住むことに。これまでも年に数回必ず来ていた尾瀬、ただこんなにも尾瀬の自然と向き合ったことはありません。5月の春に始まり10月の冬の訪れで終わる短い尾瀬のシーズンは、移ろう山々の風景、花や木々、鳥や蝶・トンボを追いかけ回って、あっという間に過ぎてしまいました。イベントに参加いただいた方から、「面白かったよ」「参加して良かった」「また来たい」と言っていただけたことが何よりの励みになり、さらに喜んでもらうにはと頑張る自分に気づき自画自賛、そんな自分を支えていただいた周りの皆さんに感謝です。（伊藤　信一）

尾瀬が好きという思いだけで飛び込んでしまったがゆえに、大きな不安を抱えながら残雪の登山道を踏みしめて尾瀬沼を目指した上山の日。それから季節が早足で駆け抜けていきました。たった数日で咲く花も風景も様変わりしてしまう自然の有様に、今、目に見えていることを楽しみ堪能することの大切さを教えてもらいました。先人達が守り、これからも綿々と続いていく尾瀬の歴史のほんの一瞬に、非力ながらも携わることができたことに感謝しています。（大内　梨江子）

尾瀬沼ビジターセンター職員

尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは尾瀬ボランティアの活動を紹介します。

● シーズン終了に向けた「ありがとう尾瀬清掃活動」&「シカ柵撤去作業」

10月8日(日)と10月14日(土)に、尾瀬ヶ原にてありがとう尾瀬清掃活動を実施しました。企業ボランティアと尾瀬ボランティア、2日間で総勢27名のみなさまにご協力いただき、尾瀬ヶ原のゴミ拾いを実施することができました。両日ともお天気に恵まれ、ふと顔をあげたときの草紅葉がとても綺麗でした。

ポケットから落ちたと思われる菓子袋やティッシュ、ペットボトルなどが目立つ中、スマートフォンや、置き忘れたであろう水筒などもありました。入山者が多い週末でしたが、この活動を見た方々が、改めて「ごみ持ち帰り」を意識するきっかけになったと感じています。

※尾瀬沼周辺の清掃活動は、荒天予報のため残念ながら中止となりました。

10月13日(金)に研究見本園、10月21日(土)に大江湿原のシカ柵撤去作業を行いました。両エリアとも、ニホンジカから尾瀬の植生を守るために、シーズン初めに設置をした柵です。雪の重みによる破損や折損を防ぐため、毎年シーズン終了前に撤去しています。

見本園では、26名の企業ボランティア・尾瀬ボランティアのみなさまにご協力いただき、スムーズに作業を進めることができました。笹に絡まったアンカーやネットの取り外しは大変ですが、山々の紅葉を愛でながら作業をすることができました。

大江湿原では、他の機関や団体と合同で、総勢63名での作業となりました。8班に分かれて作業し、1時間半程で完了することができました。朝は雲に隠れていた燧ヶ岳も、作業を終了する頃には冠雪した姿を少しだけ見せてくれました。

ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。

● 4年ぶりのインタープリテーション研修

9月9日(土)～11日(月)にインタープリテーション研修を開催しました。隔年で実施している研修ですが、令和3年シーズンは新型コロナウイルス感染症の影響で中止したため、4年ぶりの開催となりました。参加された11名の尾瀬ボランティアのみなさまにとっては、インタープリテーションを基礎から学ぶ機会であるとともに、尾瀬ボランティア同士で交流を深める良い機会となり、充実した3日間だったと思います。

今回の研修で得た知識や学びを、是非、お話ボランティアや環境学習ミニガイドツアーなどの活動に活かしてください！

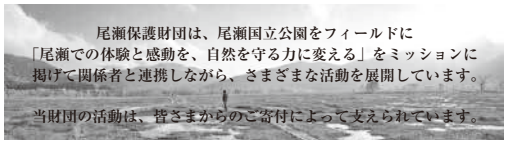
● 尾瀬自然解説ガイドの増員

尾瀬自然解説ガイド事業では、尾瀬を訪れた方が、来たときよりも尾瀬を身近に感じられるようにお手伝いをしております。尾瀬自然解説ガイドが、ビジターセンター発着の所定のコースを案内しながら、尾瀬の自然や成り立ち、保護活動等を解説します。

「尾瀬自然解説ガイド」は、尾瀬ボランティアのうち所定の要件を満たした方を、当財団にて認定しています。本年度は、通信研修と2日間の養成研修を経て、7名の方が新たに加わりました！尾瀬ボランティア活動や個々の活動から得た知識や経験を活かし、「尾瀬自然解説ガイド」として活躍されることを期待しています！

寄付のお願い

美しい尾瀬を未来に引き継ぐために皆さまからのご支援をお願いします



■所得税、法人税、個人県民税、個人市町村民税について

尾瀬保護財団へ寄付をすると優遇措置が受けられます。詳しくは、当財団ホームページをご確認ください。

※所得税・法人税の詳細については最寄りの税務署に、県民税・市町村民税については、お住まいの都道府県・市町村にお問い合わせください。

■特別協賛寄付・協賛寄付について

企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度を設けています。

■寄付の方法

当財団へご寄付いただく場合は、財団事務局へご来訪いただくか、ご連絡の上、以下の口座にお振込をお願いします。

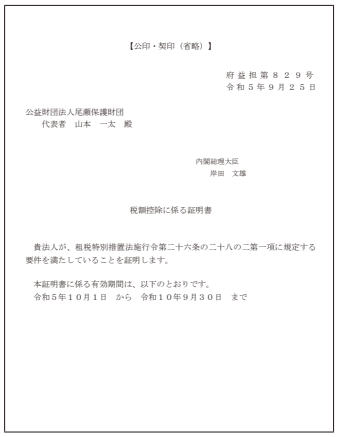
福島県	群馬県	新潟県
東邦銀行県庁支店　普通　1078095	群馬銀行県庁支店　普通　0515428	第四北越銀行県庁支店　普通　1182791

※振込手数料は寄付者のご負担となります。何卒ご了承ください。　※以下の口座を廃止いたしました。お振込の際には十分ご注意ください。
大東銀行福島支店口座 ／ 福島銀行本店営業部口座 ／ 東和銀行本店営業部口座 ／ 第四北越銀行 (旧北越銀行) 新潟県庁支店口座 ／ 大光銀行新潟支店口座

■注意事項　ご寄付の受領後、領収書等を作成・送付させていただきます。
ご住所及びご芳名が不明な場合、必要書類をお届けすることができません。必ず財団事務局へご一報ください。

■お問い合わせ先　公益財団法人尾瀬保護財団事務局（寄付担当）　TEL：027-220-4431　Mail：info@oze-fnd.or.jp

「税額控除対象法人」の証明を受けました。



【公印・契印（省略）】

府益担第８２９号
令和５年９月２５日

公益財団法人尾瀬保護財団
代表者　山本　一太　殿

内閣総理大臣
岸田　文雄

税額控除に係る証明書

貴法人が、租税特別措置法施行令第二十六条の二十八の二第一項に規定する要件を満たしていることを証明します。

本証明書に係る有効期間は、以下のとおりです。
令和５年１０月１日　から　令和１０年９月３０日　まで

税額控除に係る証明書（写し）
（府益担第８２９号文書）

令和5年9月25日、尾瀬保護財団は 内閣総理大臣（内閣府）から「税額控除対象法人」の証明を受けました。

令和5年10月1日以降にご寄付をいただいた場合、所得税額の特別控除（税額控除/税制上の優遇措置）を受けることが可能です。個人の寄付者が確定申告にあたって所得税の寄付金控除を受ける場合、税額控除または所得控除のいずれか１つを選択できます。寄付金控除額の計算方法などの詳細は、ご寄付にかかる領収書等の添付資料または当財団ＨＰをご確認ください。　URL：https://oze-fnd.or.jp/ozg/zei/ 「税制上の優遇措置について」頁

(1) 交付内容

租税特別措置法施行令第26条の28の2第1項に規定する要件（※）を満たしていることを証明する文書。　（※）実績判定期間（平成30年4月1日から令和5年3月31日までの5年間）における経常収入金額のうちに寄附金収入金額の占める割合が五分の一以上であること。

(2) 交付者

内閣総理大臣（内閣府）
公益法人information（国・都道府県公式公益法人行政総合情報サイト）から検索可能です。
URL：https://www.koeki-info.go.jp/pictis-info/pta0001!show#prepage2
「お知らせ＞税額控除にかかる証明検索」頁

(3) 証明書の有効期間

令和5〔2023〕年10月1日 から 令和10〔2028〕年9月30日 まで（5年間）

特別協賛寄付者のご紹介

※11月30日現在、五十音順、敬称略

あいおいニッセイ同和損保
MS&AD INSURANCE GROUP
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
通算寄付額　5,396,790円

糸井商事
糸井ホールディングス
糸井商事株式会社　通算寄付額　9,600,000円

心の産業グループ
エコ計画
環境・食・貢献をテーマに!
私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています
株式会社エコ計画　通算寄付額　8,000,000円

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく
ISUZU
関東いすゞ自動車株式会社　通算寄付額　900,000円

群馬トヨペット
群馬トヨペット株式会社
通算寄付額　2,107,140円

株式会社ジーシーシー
株式会社ジーシーシー　通算寄付額　900,000円

一生涯のパートナー
第一生命
Dai-ichi Life Group
第一生命保険株式会社 群馬支社
通算寄付額　2,650,000円

Asset Management One
投資の力で未来をはぐくむ

アセットマネジメントOne
株式会社
通算寄付額　42,840,390円

尾瀬紀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部をご寄付いただいております。平成19年より今回が17回目のご寄付となります。
通算寄付総額　85,680,779円

群馬銀行
私たちは「つなぐ」力で地域の未来をつむぎます

株式会社群馬銀行
通算寄付額 38,987,075円※

（※）尾瀬紀行(ぐんぎん証券様分)、横断幕寄付、ぐんぎんSDGｓ私募債、株主優待制度「寄付コース」、その他財団設立当初の一般寄付を含む。

第四北越銀行
DAISHI HOKUETSU BANK

株式会社第四北越銀行
通算寄付額　7,249,361円

第四北越証券
Daishi Hokuetsu Securities

第四北越証券株式会社　通算寄付額　1,978,893円

すべてを地域のために
東邦銀行

株式会社東邦銀行　通算寄付額　15,596,960円※
※尾瀬紀行（とうほう証券様分）を含む。

協賛寄付者のご紹介

※11月30日現在、五十音順、敬称略

仲間が広がる、旅が深まる
クラブツーリズム

クラブツーリズム株式会社
通算寄付額　1,750,000円

一般財団法人群馬県警察厚生会
通算寄付額　1,300,000円

群馬県ビルメンテナンス協同組合
通算寄付額　2,300,000円

GN群馬日産自動車株式会社

群馬日産自動車株式会社　通算寄付額　1,200,000円

KDDI株式会社
通算寄付額　656,700円

佐田建設株式会社
SATA

佐田建設株式会社　通算寄付額　300,000円

Smile Park SMARK ISESAKI

スマーク伊勢崎
通算寄付額　1,500,000円

利根郡信用金庫

利根郡信用金庫　通算寄付額　4,045,390円

このまちの笑顔をふやそう。
とりせん

株式会社とりせん
通算寄付額　2,878,562円

NICHINEN

株式会社ニチネン　通算寄付額　1,700,000円

ひかり接骨院
通算寄付額　793,000円

その他の寄付者のご紹介

※令和5年6月1日～10月31日までの寄付者、五十音順、敬称略

新井富雄、荒川和広、板橋勇人、伊藤信一、大西多美、株式会社高橋哲也建築計画、神移壽司、河添直樹、鈴木辰己、鈴木秀博、中石雅文、割田甚一

皆さまからのご寄付の使途について（尾瀬保護財団の主な活動）

皆さまからのご寄付は、旅行会社や登山者への普及啓発活動、ビジターセンターでの自然解説活動、公衆トイレや木道の維持管理、至仏山の環境保全対策、ニホンジカ対策、ツキノワグマとの共生、外来植物対策など、幅広い事業に役立てられます。

入山口啓発活動

至仏山登山道柵立て作業

シカ柵（ニホンジカ侵入防止柵）設置作業

自然解説活動（自然観察会）

木道の桟木打ち作業

特定外来植物（オオハンゴンソウ）駆除作業

はるかな尾瀬
公益財団法人 尾瀬保護財団機関誌
2023.12　令和5年12月20日発行
発行所：公益財団法人 尾瀬保護財団

表紙の風景

水芭蕉に始まり数々の花リレーの尾瀬。季節を違え訪れるがそのたびに期待は裏切られ新しい出会いや発見があり、わくわくさせられてきた。そんな尾瀬を時々絵葉書にして友人に送っていたが、何時からか印象深く残った場面を絵はがきに描き残すようになった。下の大堀川のビューポイントはいつも訪れる場所である。春の水芭蕉と川の流れと残雪の至仏山はまさに尾瀬ヶ原の絶景である。人気の少ない時期、原を埋め尽くす植物たちは来年へのたくわえを終え褐色に変容、牛首の広葉樹は紅葉の最中、下の大堀川の穏やかな流れ、背後に雄大な至仏山、もの悲しい晩秋を感じさせてくれる。

尾瀬ボランティア　白澤滋民

「尾瀬ボランティア総会」を実施します！

- 開催日 2024年2月3日（土）
- 時　間 午後（別途連絡）
- 場　所 ソニックシティ（大宮）を予定

本年度は、大宮にて尾瀬ボランティア総会を実施します。
この機会に、是非尾瀬ボランティア同士の交流を深めましょう！
尾瀬ボランティアのみなさまのご参加をお待ちしております。

クレジットカードで寄付ができます！

自宅や外出先で、簡単に3ステップ寄付！

手順
① QRコードを読み取り
② 特設ページに表示されている「寄付で尾瀬を支援する」をクリック
③ 必要事項を入力
※詳細は当財団HPをご確認ください。

▲ QRコード

皆さまからのご支援をお願いします!!

友の会コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。

※加入・更新時期は年４回（５月・８月・11月・２月）です。

※令和6年2月1日からの加入・更新をご希望の方は12月29日までに会費の納入をお願いします。

《年会費》

個人	個人会員	1口　2,000円
	家族会員（個人会員と同居の家族）	1口　1,500円
	ユース会員（加入又は更新時に満22歳以下）	1口　1,500円
賛助会員（企業・団体等）		1口 10,000円
特別会員（企業等）		3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付

《特典について》

友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただいております。

- **友の会会員バッジ進呈**（初回加入時のみ）、**各種資料送付**
- **財団機関誌**：郵送にてお配りします
- **宿泊割引**：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引（休日、祝祭日前等の除外日があります。）
- **尾瀬周辺施設利用料割引**：入浴料割引
  対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。
  https://oze-fnd.or.jp/ozg/fc/

編集後記　11月最終日。雪国に住む母親から一日で40cmも積もったと連絡がありました。10月下旬にビジターセンターの前で出会った子ジカは、今頃どうしているのだろうと、ふと気になりました。シカは雪深いとお腹を擦ってしまい、動けなくなるそうです。尾瀬では困り者のシカですが、実際に出会うと本当に可愛らしく、彼らと尾瀬が共生する方法はないものかと考えてしまいます。雪が解けた春、シカの目にはどんな尾瀬が映るのか、できればまた会いたいなと思います。（佐々木）

OZE Mobile
スマートフォンサイト
- 緊急情報　- お知らせ
- ライブ映像　など

（旧Twitter）
尾瀬情報配信中
尾瀬の情報を随時発信します
@oze_info

尾瀬保護財団note
尾瀬に関するさまざまな記事を投稿します

〒371-8570　群馬県前橋市大手町1-1-1　TEL　027-220-4431／FAX　027-220-4421
ホームページアドレス　https://oze-fnd.or.jp
ツイッター　https://twitter.com/oze_info　E-mail　info@oze-fnd.or.jp

本誌は、再生紙と環境にやさしい再生植物油インキを使用しています。